

築城



坂本城は、元亀2年（1571年）の比叡山焼き討ち後、織田信長の命により明智光秀が築城しました。元々、北陸や東国からの物資を荷揚げする港として栄えていた場所であり、将軍や天皇がいる京に近いことから、軍事的目的以外にも経済・政治的な理由から築城されたと考えられています。

炎上



城主である明智光秀は、本能寺の変にて主君織田信長を討ち取りました。その後、山崎の合戦にて羽柴秀吉との戦いに敗れ、坂本城へ逃げ帰る途中、農民に竹槍で刺され命を落としました。明智軍の本拠地として坂本城は羽柴軍に包囲され、明智一族が自ら火を放ち、天守は焼失してしまいます。

再建



焼失後の坂本城は、信長の重臣であった丹羽長秀が城主となり、壊れたお城の再建を行います。実は、これは秀吉の戦略で、秀吉が坂本城主になると天下を狙っていると思われることから、わざと丹羽長秀に城主を譲ったとされています。坂本城はそれほど重要なお城であったということです。

廃城



丹羽長秀の後、坂本城主は杉原家次、浅野長吉といった秀吉直属の部下が担うことになりました。しかし、経済や政治の中心が京から伏見や大坂へ変わっていく過程で、琵琶湖南部の拠点も坂本から大津（現在の浜大津）へと変わっていきます。その結果、坂本城は役目を終え、その役割は大津城へと移っていきます。

本丸発掘調査成果

昭和54年度に実施された発掘調査では、屋敷跡のほか、大量の瓦などが確認されました。当時、瓦葺きの建物は少なく、屋敷は上級家臣の屋敷もしくは城主の御殿と考えられます。また、出土した瓦には赤色と黒色のものが存在していました。赤色の瓦は、坂本城本丸の炎上を示す根拠とされてきましたが、近年の科学分析の結果、当初より赤く仕上げられたものが一定数存在することが判明しました。



写真1 見つかった屋敷跡



写真2
赤色の瓦

写真3
黒色の瓦

三ノ丸発掘調査成果

令和5年度に実施された発掘調査では、幅9mの堀が長さ30m以上確認されました。この堀は坂本城の西端であると考えられ、坂本城の範囲を示す遺構の初めての発見となりました。その他、堀と繋がる舟入と思われる遺構も確認され、琵琶湖と坂本城が堀で繋がっていたという文献記録との整合性が確認されたともいえます。



写真4 見つかった堀の石垣



写真5 三ノ丸空撮

●問い合わせ先●

大津市 市民部 文化財保護課

TEL. 077-528-2638

mail : otsu2406@city.otsu.lg.jp

大津市御陵町3番1号（大津市役所別館2階）

幻の水城
坂本城

大津市

歴史年表

1571年(元龜2年)9月

織田信長による比叡山焼き討ちが行われる(『信長公記』)。焼き討ちによる煙は京から見えたとされる。その後、明智光秀が志賀郡の支配を任される。

1571年(元龜2年)12月

明智光秀、比叡山の木々を伐採し、坂本城を築城し始める(『年代記抄節』)。

1573年(元龜4年)5月

明智光秀、堅田で討ち死にした家臣を弔うため、西教寺に寄進を行う(『西教寺文書』)。

1573年(元龜4年)7月

挙兵した足利義昭討伐のため、織田信長が大船で坂本まで兵を輸送する(『信長公記』)。

1575年(天正3年)5月

薩摩の島津家久が坂本城を訪れ、明智光秀が直々に船を漕いで城内を案内する(『中務大輔家久公御上京日記』)。

1575年(天正3年)9月

明智秀満(光秀の重臣)が、天守は白壁とし、門・櫓の材木を取り寄せるよう命じる(『明智秀満書状』)。

1576年(天正4年)7月

明智光秀、歴戦の疲れにより病気になる坂本城で療養する(『兼見卿記』)。

1580年(天正8年)閏3月

明智光秀、坂本城の再普請を行う(『兼見卿記』)。

1582年(天正10年)1月

吉田兼見、明智光秀が小天守にて茶会を開く(『兼見卿記』)。

1582年(天正10年)6月

明智光秀、本能寺にて織田信長を討つ。その後、山崎の合戦にて敗走。坂本城への帰還途中で農民に討たれる。秀吉軍に包囲され、明智軍敗北。明智秀満ら天守に火をかけ、自害する(『兼見卿記』ほか)。

1583年(天正11年)5月

羽柴秀吉賤ヶ岳の戦いの戦後処理を坂本城で行う(『千石権兵衛宛書状』)。

1583年(天正11年)8月

杉原家次、坂本城主になる

1583年(天正11年)12月

浅野長吉(長政)、坂本城主になる(『永田家文書』)。

1585年(天正13年)11月

天正大地震発生。坂本城にいた羽柴秀吉は急いで大坂城へ帰る(『日本史』ほか)。



想定される坂本城の見取り図

坂本城は、わずか15年程度しか存続しなかったお城です。お城の部材は大津城へ移築されたといわれ、建物や石垣などはほとんど残っていません。そのため、坂本城は「幻の城」と言われることがあります。そんな坂本城ですが、地名や河川(水路)などの痕跡、さらには発掘調査の成果から、徐々にその範囲や構造が判明してきました。

お城の西端に位置する三ノ丸の堀は、幅9mであることが判明し、堀の護岸には石垣が存在していることが分かりました。また、お城の中核である本丸からは屋敷の跡が確認され、大量の赤色と黒色の瓦が出土しています。このことから、坂本城の瓦を使用した建物は、赤と黒のツートンカラーであった可能性が浮上しました。

さらに、『中務大輔家久公御上京日記』には、明智光秀が島津家久を船に乗せて坂本城下を案内したという記述が残されています。このことから、坂本城は琵琶湖と一体の城であったと考えられています。

坂本城の調査研究はまだ発展途上ですが、これまでに判明している成果には、織豊期城郭の発展過程を知るうえで重要な価値があることが認められました。そのため、坂本城は令和7年9月に国の史跡に指定されました。

